

整理番号	44-19	事務事業名	林間学園・レクリエーションの森 管理運営事業	作成部署	生涯学習部 社会教育課	電話	内線895	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	可児正樹	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S55	根拠法令等	北広島市レクリエーションの森設置及び管理に関する条例					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	S45年「広島町総合開発計画」のなかで、町民を対象とした自然型施設の設置構想を掲げ、S50年林野庁の承認を受け、S55～59年に整備し、以来緑豊かな憩いの場として市民等に活用されている。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化をはぐくむまち	(第4章)
	節	社会教育	(第3節)
	施策	施設の充実とネットワーク化	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市民等	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	自然を利用した野外活動の場を市民等に提供することにより、生活に潤いをもってもらおう。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	事業費の9割が施設の維持管理に充てられている。障がいのある方、お年寄りの方等が安全に利用できるための園路改善(220m)や、専用駐車場(2台)を新設した。また、市民を対象とした自然体験講座(年3回)を行なった。
		17年度	引き続き施設の維持管理を実施し、安全性と利用者の利便性の維持に努める。また、市民を対象とした自然体験教室および子どもを対象とした就労体験学習を実施する。

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	8,106	7,873	7,511	7,511
	合計	8,106	7,873	7,511	7,511
人件費(概算)	人数(年間)	0.25	0.25	0.25	0.25
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	2,250	2,250	2,250	2,250
総事業費 +		10,356	10,123	9,761	9,761

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	施設全体の利用者数	40,000人	40,000人	40,000人	40,000人
	(広場・炉場の利用者実数)	(20,394人)	(17,415人)	(20,000人)	(20,000人)
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	(代替指標)	40,000人	40,000人	40,000人	40,000人
	施設全体の利用者数	(20,394人)	(17,415人)	(20,000人)	(20,000人)
	(広場・炉場の利用者実数)				
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	利用者1人当たりのコスト	259円	253円	243円	243円
	(総事業費 ÷ 利用者数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	市民の自然志向は年々高まっており、特に最近では家族連れや障がいのある方の利用者が増加している。また、教育現場における総合学習の場として、多くの学校が積極的に活用している。
---------------------------------	---

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民を対象とした開放施設であり、常に安全な状態で利用できることが不可欠であることから、今後も市が事業を行う必要がある。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	市民が身近な自然に触れ合うことが出来る大規模な公園(41ha)は市内でここだけであり、有用な施設である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	施設の管理については、民間(シルバー人材センター)に委託している。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	市民が憩う開放施設であり、これまで多くの方々が気軽に利用している。施設の特性も考慮すると、受益者負担は適当ではない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	多くの市民が訪れ、年間を通して自然とのふれあいを満喫しており、維持管理には大きな問題はない。15年度より管理棟を一般開放した結果、多くの市民に利用されている(平成14年516人 平成16年1,600人)。	体験学習の場として、積極的な活用をおこなう。具体的には、子どもを対象とし、施設の維持・管理等の労働を通じて、就労体験の機会を提供する。また、管理棟内における自然観察用品の充実に努める。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	維持管理にかかるコストはH15年と比較するとわずかな削減であるが、土地建物賃料、委託料などの必要経費が9割程度を占めており、今後大幅なコスト削減は見込めない。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	レクの森に寄せる市民のニーズは年々高くなっており、利用者は増加傾向にある。開園から20年が経過し、施設全体の損傷がひどく、日常点検の強化と修繕を行っている。今後も耐用年数(10~15年)を経過している遊具・設備の更新に着手し、施設の質と安全の確保に努め、自然体験学習の場として活用する。
【2次評価】	判定	
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり